

事例報告の要約

分科会：まちづくり系ボランティア

団体名(会員数) NPO法人地域交流センター 津屋崎ブランチ (4名)	(団体の住所/連絡先) 〒811-3304 福津市津屋崎4丁目15-17		
	(電話) 0940-52-5760	(FAX) 050-3488-6172	(活動範囲) 市内
事例報告者		木村航	
(タイトル)		「やりたい！」の連鎖がまちを変える ～未来創造型のボランティア～	
<p>私は福津市の津屋崎という町で、地域活性化の仕事に携わっております。</p> <p>「未来創造型ボランティアが、まちを元気にする」といったタイトルでお話をしたいと思います。</p> <p>まず、地域にはいろんな課題があります。少子高齢化の話だったり、安全の問題だったり福祉の問題だったりいろいろあります。そういったことを解決しようというのが、まちづくりの一つのモチベーションになると思います。「大変！困った、どうしよう！」と、その課題を解決しないと普通に生活が送れないという、言わば マイナスの現状を ゼロにして、みんなが安心して生活ができるようにするという「まちづくり」を、私は「課題解決型」というふうに思います。これは確実に、どの町にもあります。</p> <p>一方、今日のテーマになっている文化だったり、楽しさ、生きがいといったものは、現状をゼロとすると、ゼロからイチにすることではないかと思えます。そういう今までなかったものを新たに創り出す活動を、私たちは、「未来創造型」と呼んでいます。</p> <p>まちづくりには「課題解決型」と「未来創造型」のどちらも必要ですが、津屋崎ブランチはこの「未来創造型」のまちづくりをしようということで、今、フィールドとして選んでいるのが福津市の奥座敷にある津屋崎という町で、2009年10月から展開してきました。</p> <p>「未来創造型」の活動の一番の原理、それは「これがしたい！」という想いです。何か楽しそうだからやる。「これが問題だ！」ではなく、「私は、これをやりたいからやりましょう！」とやってみる。「これがやりたい」というのがモチベーションなので、初めは誰も応援してくれないかも知れません。まさに、自分のボランティア(自発的)な意思です。誰から言われたわけでもなく、自分からやってみる。それで、最初の一步を踏み出してみる。それは楽しい筈ですから、隣りの人がそれを観て「楽しそうだね！」とってくれる、「私もやりたい！一緒にやろう！」とあって、少しずつ仲間が集まってきます。初めはボランティアなこと、他に誰もついて来ないかも知れませんが、「お金」という話しにはなりません。ただ、それが例えば、多くの方が仲間に加わってくれ、その活動によって誰かの助けになるとか、「この活動は必要だ」と皆が認めてくれた段階で、それは公共性のあるもの、社会性のあるものとなり、先でのビジネスにも繋がって行くわけです。</p> <p>私は埼玉県出身です。埼玉の高校を出て、東京の大学を卒業し、東京で就職しました。営業畑の仕事に就きましたが、求めるものと何かが違うと思って辞め、「まちづくり」をやりたいと九州に引っ越してきました。それで私にとっては「まちづくり」とは生業のことで、「やりがい」とか言う以上に、これをお金に、ビジネスにして、自分は「これで食べて行くんだ！」と常に意識しております。</p> <p>したがって、収益性のあるもの、公共的なものは、当然、みなさんが必要としているもので、ちゃんとお金を生み出せるような形にして、しかもそれが継続して行って次の世代や皆さんの子ども・孫の世代まで続いて行くようなものにしていくことが、「まちづくり」のスタイルではないかと思っております。</p> <p>そして最終的には、その町が元気になってくれることが「未来創造型」の一番の目標です。</p> <p>ここで、津屋崎というところをご紹介します。</p> <p>平成17年に津屋崎町と福間町が合併して福津市となりましたが、津屋崎という町はもともと港町でした。昔は海上交通が主でしたが、津屋崎千軒と呼ばれていた津屋崎は交通の要所で、海上交通と塩で栄えた港町です。</p> <p>町なかには、歴史のある古い建物が数多く残っておりますが、これらはただ残っているのではなく、残したいという町の方々の活動の結果として残っていると、聞きました。</p> <p>文化的には、博多に近いため山笠の祭りもあります。また、海沿いであって、夕日がとても美しいところです。</p>			

私のいるところは、地域交流センター津屋崎ランチと言います。

ランチとは支店という意味で、東京にあるNPO法人地域交流センターが本拠地で、かなり老舗のNPOです。35年の歴史があります。私は東京にいて、津屋崎ランチが立ち上がるという話を聞きつけ、「是非、私にやらせて！」と名乗りをあげて、2009年10月にこちらに移ってきました。

メンバーは、私を含めて4名です。私たちの活動は、「移住・交流・ビジネス化」に要約できます。空き家を整備し、ホームページなどで情報発信をしてまちづくりを担う若い人材を呼び込み、地域の人や移住したい人が語り合い、まなびあう、交流イベントを開いてネットワークをつくる、そのような移住と交流を土壌として新しいビジネスを生み出し、経済を生み出していく。そして、この津屋崎という町がずーと存続し続けることが私たちの願いです。

津屋崎ランチのやっていることは多岐にわたるので、全て紹介することはできませんが、基本にあるのは「未来創造型」であり、しかも、やって楽しいということを何よりも重視してきました。

今から紹介する事例は、この楽しさに引き寄せられた人たちの繋がりで続いている事例です。

①お気に入りの本を紹介しあう「ブックレード・カフェ」

津屋崎には本屋がありませんので、新しい本に出会う機会が少ないという現状があります。ならば、自分のお気に入りの本を5冊とか10冊とか持ち寄って、その書かれている本の中身を語りあいましょう！と。一人が一冊ずつ語って行き、10人集まれば100冊の本と出合うことが出来ます。喋ると喉が渇きますので、コーヒを飲みながらの2時間程度の集まりです。しかも気に入った本は交換して持ち帰るという集まりです。

②塩倉庫コンサート

江戸時代、製塩で栄えた津屋崎の痕跡・塩倉庫が残っていたので、蔦の生い茂った廃屋をきれいにしてライトアップしてコンサートを昨年4月にやりました。これは、私の「やりたい！」を形にした一つの事例です。

③古民家を改修した日替わりカフェ「Café and Gallery 古小路」

津屋崎には70軒くらい空き家があることがわかりましたが、その一つに元タバコ屋さんだった空き家があり、その空き家を改修して、日替わりのカフェとして成功した例をご紹介します。

パン屋をやりたい主婦がおられてこの空き家を気に入ってもらいましたが、毎日は無理で週に1日だけならと、入ってもらいました。元タバコ屋は、1日だけのパン屋さんでした。ところがしばらくして、楽しそうにパン屋をやっている姿を見たお客さんが、「私は紅茶を売りたいのだが」との相談があり、空いた月曜日に紅茶の店を開いてもらうことになりました。その後、店にこられたお客さんが次々と手を上げられ、ついに1週7日、それぞれ違う人がお店をやることとなりました。

④商店街の空き家をクラフトマーケット会場にする「手作り市」

「古小路」ができて、布や陶器や木工を作る人がお客さんで来て、彼らのネットワークができました。一方、津屋崎には空き店舗がたくさんあり、ならばということで、それらの店を1日だけ開けて、手作りの品々を売る「手作り市」が出来ました。今では、30数名のクラフト出店者が集まり、市に参加する空き店舗の数も回を追うごとに増えています。

⑤古民家やお寺がコンサート会場になる「音楽散歩」

集落のさまざまな施設を開放して、コンサートが聞けるお祭りが「音楽散歩」です。津屋崎千軒に古民家を改修した「藍の家」という場所があって、町のボランティアの皆さんが約18年もの間一生懸命運営してこられ、毎年3～4回自腹でコンサートを開いてこられました。その長い間の演奏者とのつながりを活かした、やりたい人が集まって開く「手作りコンサート」を開催しました。この外、築60年の空き家を改修してゲストハウスとして使おうという「津屋崎千軒ゲストハウス」や、津屋崎の暮らしに触れる旅行企画「福津暮らしの旅」を試験的に始めております。

【ま と め】 「未来創造型」推進の3つのポイント

(一) まず形にすること。

「これあったら良いな！」を形にするには、かなりなエネルギーがいりますが、やっている人の背中を押してあげること、一緒にどうやったら形になるかを考えることが大切です。

(二) 仲間(お客さん)を大切にすること。

津屋崎にお客さんとして来てくださる人は、新しい「やりたい！」の種を持っている人だと思っているので、その場限りではなく、連絡先などをしっかりと聞いておいて次につなげることが必要です。そして、「何かやりたいことはありますか?」とか、「どんなことをしたいですか?」を必ず聞くようにしています。

(三) ビジネスにつなげること。

私自身、この「まちづくり」の仕事を自分の生業と考えておりますので、これを持続的に発展させていくことが必要です。最終的には仕事・ビジネスにつなげていくことであると考えております。

津屋崎出身の子ども達が将来、帰ってくるには何が必要か、それは雇用の場ではなく、彼らが自分の力を発揮出来るような新しい希望であったり、新しい仕事のかたちを見せてあげることだと思います。どんな小さなことでも、これがビジネスになるんだよ、というモデル造りにこだわってこれからもやっていきます。